

消防と人命救助にちなむ外国切手(2)

平岩道夫(切手評論家)

前号に続いて、今月は世界の切手に見る消防と人命救助活動にちなむ切手のなかから、ユニークな4枚をお目にかけてよう。

まず左上の切手(写真1)だが、これは1981年にアメリカから発行されたもので、テーマは“輸送機関シリーズ”。①郵便馬車、②電気自動車、③馬車、④消防自動車を描いた4種の1枚。

なかでも消防自動車は、1860年当時、活躍したものを図案に採り上げている。現在の近代的な消防自動車の原型ともいえるものだ。切手の刷色は、いうまでもなく“赤”——。

切手マニアならすぐに気付くことだが、実はこの切手の上下には、目打ち(ミシンの穴)がついていないという“変わりダネ”。この切手は“コイル切手”と呼ばれているもので、日本では郵便局にある切手の自動販売機で切手を買えば、こういった目打ちのないものがでてくるという仕組み。

人命救助といえば、1988年にジャマイカでは、赤十字125年の記念切手を2種発行した。2種とも人命救助の様子を描いているが、そのうちの1枚がこれ。(写真2)。

人命救助活動には忘れることができない“赤十字”のマーク入り救急車に、医師、



写真1



写真2



写真3



写真4

看護婦、患者が描かれている。

左下の切手(写真3)は、アイルランドから1988年に発行されたもので、やはり救急隊の路上における活動ぶりを表現している。

さて最後の4枚目(写真4)の切手は、大変シンプルな図案ながら、なぜか強烈な印象をあたえる切手——と、話題を賑わせているもの。

フランスから1988年に発行されて切手で、救助活動には見逃せない“血液”をズバリ描いている。献血運動を広くうったえるために発行された切手、というわけである。